

平成21年度フォローアップの実施について

- 「分野別推進戦略」、「科学技術連携施策群」 -

平成22年3月3日
分野別推進戦略総合PT

1. 今回フォローアップについて

科学技術基本計画(平成18年3月策定)が定める8分野(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア)に関する政策課題対応型研究開発を対象として、毎年度末のフォローアップを実施する。現行の「分野別推進戦略」の最終年度(平成22年度)を間近にした現状の整理を目的として、21年度の取組みを中心に当該戦略を巡る情勢変化を含めてとりまとめる。

さらに、関係府省の連携によって推進する「科学技術連携施策群」についても、19年度に開始した計6テーマ/群の補完的課題がすべて終了するため、その成果についてとりまとめる。

【参考】「科学技術基本計画(平成18年3月28日)」より抜粋

第5章 総合科学技術会議の役割

2. 具体的取組

(6) 科学技術基本計画の適切なフォローアップとその進捗の促進

以上のような取組を推進するとともに、基本計画に掲げた施策の実施状況を関係府省の協力の下、フォローアップを行い、必要に応じ意見を付して内閣総理大臣及び関係大臣に提示する。フォローアップは毎年度末に行い、3年を経過した時に、より詳細なフォローアップを実施し、その進捗を把握するとともに、必要に応じ計画に掲げた施策の変更などに柔軟に対応する。また、科学技術システム改革に関しては、計画に定められた施策の進捗を促進・誘導するために、必要に応じて所要の措置を講じる。

2. フォローアップの手順

関係府省に対して必要な情報提供を依頼し、その報告に基づき、各分野及び各施策群のフォローアップ原案を作成した後に、分野別PTの検討を経て、本PTにおいてフォローアップ結果をとりまとめる。

3. 今後の予定

6月頃を目途に、フォローアップ結果をとりまとめ、公表する。

(参考1)「分野別推進戦略」(平成18年3月28日、総合科学技術会議)より抜粋

「重要な研究開発課題」は、今後5年間に政府が取り組むべき重要な課題を、将来波及予測、国際競争、政策目標への貢献、官民の役割分担など総合的な視点から抽出したものである。また、各課題毎に研究開発目標及び成果目標を政府の責任部署とともに明記し、政府の研究開発が何をめざすのかを明らかにしている。

「戦略重点科学技術」は、重要な研究開発課題の中から今後5年間に集中投資すべき科学技術として、急速に高まる社会・国民のニーズに迅速に対応すべきもの、国際競争を勝ち抜くために不可欠なもの、国主導の大規模プロジェクトで国家的な目標と長期戦略を明確にして取り組むもの(国家基幹技術)を選定した。

(参考2)平成21年度に補完的課題が終了する科学技術連携施策群
(平成19年度～)

名称 【関係府省】	主監
臨床研究・臨床への橋渡し研究 【文科省、厚労省、経産省】	松澤 佑次 (財)住友病院院長
食料・生物生産研究 【内閣府(食品安全委員会)、文科省、厚労省、農水省、経産省】	小川 奎 (財)日本植物調節剤研究協会会長
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【総務省、文科省、経産省】	西尾 章治郎 大阪大学理事・副学長
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【厚労省、農水省、経産省、国交省、環境省】	安井 至 (独)製品評価技術基盤機構 理事長
ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【文科省、厚労省、農水省、経産省、環境省】	中西 準子 (独)産業技術総合研究所安全科学研究部門長
テロ対策のための研究開発 - 現場探知システムの実現 - 【内閣官房、警察庁、総務省、財務省、文科省、経産省、国交省、防衛省】	森地 茂 政策研究大学院大学教授